〔第164回明専塾（ITコンサルタント）〕

個人事業主の仕事術

情生H22　辻　裕人

生活を送るにあたって必要な能力であるため、今回の講演の主軸に置こうと考えました。

■仕事におけるコミュニケーションとは

私が学生時代のころ、「コミュ障」という言葉が流行しました。この「コミュ障」という言葉は「人との会話が苦痛である人」が自称する言葉です。確かに、仕事で他の人と会話することは大事なことですが、私は仕事で大事なコミュニケーションは、「確認」だと考えています。「確認」は自分の身を守る意味でも非常に大事なことです。私は決定したことに対しては必ず「確認」を行うようにしています。講演では、如何に「確認」が大事であるか、実例を交えてプレゼンしました。

■学生時代にやるべきこと

私が考える、学生時代にやるべきことは大きく2つあります。1つ目は「友だち作り」です。友だちは人生を通しての最高の資産だと考えます。特に将来起業を目指している人は、絶対に人脈を広げておくべきです。実際に私自身も社会人になってから、友だちとビジネスのパートナーシップを組んで仕事をしています。また、仕事の案件も友だちからの紹介をいただいています。インターネットが発達した今、気軽に友だちが作れますが、私は実際に会って友だちを作ることにこだわっています。その方がしっかり顔を突き合わせて話ができるので、どういう人なのか判断しやすいからです。2つ目は、資格の取得です。社会人になってから、資格取得の勉強をすることは難しいです。また、会社によっては資格を所持していると基本給が上がるなど特典があるため、お勧めですし、実際に業務に入ったときに用語が理解できるため、効率的に仕事を進められるからです。

■学生の姿勢の変化

講演をしてみて驚いたのが、学部1年生から修士2年生まで幅広く参加していたことでした。私が1年生の頃は、ここまで意識高く将来に対して向き合っていませんでした。懇親会に参加してくれた学生にも、将来1つの会社に勤めるのではなく、自分で事業を起こしたいという学生もおり、しっかり自分の進路と将来を考えており、将来有望だなと感じました。将来独立を考えている学生に対して、サポートしていくこともやっていきたいと思いました。

■学生に求めること

私がこれから人を雇って事業を展開していくことになったとき、学生に求めることは、前述した通りのコミュニケーションを取れることはもちろんですが、いろいろな人に好かれていることです。年齢性別問わず、いろいろな人に好かれていることは武器です。そういう人は仕事の起点になり得る、つまりリーダーシップを取れる人材であることを示しています。近い将来、今回の講演会に参加した学生と一緒に仕事ができるとおもしろいことができるだろうなと思いました。

■自分がどういう学生だったか

講演を開催するにあたって、改めて自分がどういう学生だったのかを思い返してみました。とにかく、サークル活動に精を出しているような学生だったことを思い出しました。サークルはアニメーション研究部でしたが、サークル活動を通して部員とかなりコミュニケーションを取っていたなと思います。このサークルで培ったコミュニケーション力によって、知らない人に話しかけることに抵抗がないですし、社会人になってからも役立っているなと感じます。コミュニケーションは社会人